安永九年

新後假面

安永九

全

へ13
2844

二号
へ 13
2844
旧遠
1984
16

自序

無鹽(ブエン)の舉石臼(イシモチ)乃ふまれあり河豚(フグ)
乃阿多福(オタフク)乃称なるもや醜婦(シコウフ)の
所助(ジョ)あるゆ言(イニシヘ)より例(ヒレ)なしと思ひ
よりくる一ことぬさを云と書林梓(レシヨ)(アヅサ)
せんとこの数(コ)不拙好(フツセウ)(スキ)といおもひなぐ
ばらもせいと投出(ナゲダ)さまるを油揚(ボシ)(アブラアゲ)
なりすべりくる口乃あやまち

へ13
2844

たゝ舞ふこのしし

安永庚子春

東都貪士　粥腹得心

多福面跋

予多福ぶくを考るに豚に似て毒なし。味甘く肉細なり。小口たゞしく笑ひのびのみ口を開くその容貌をそなへたり。豆腐君がいとまなく羊羹千かぶりに見識の高ぶるさへ。顔と頬多のごとし。三平自慢

ろれども。日乗上の方に魚示隔離茶で茶を
如茶の喫ハ狭ひ裏屋の庭を訓あまね
世上よりそまるとたまゝ〳〵ゝけれ白粉水
鼻乃低小つくゝゞとし東蒙るそゞ侍を化
星て一巻とちゝそその書をだゝく巻仕興へ
横ますうちの立臼ま孤是こそ手が動
ちゝめれ水て大志りゝる結まそよ志
庚子 初春

朱樂菅江

讀阿多福面

夫美人八天上より落牡丹糕ハ棚うゝ落されば
さゝさゝ法るを硝子の危うんゝろハ立臼まく
鷹の金ゝ乃ハ志ゝ。しおゝふくの面もかゞぎ
屋生ゝる鼓訓ゝて。ゝれゝる香ハ卑しとゝんどを
姫蕨鬢の遺月かゞて二枚櫛乃歯ゝきぬ
きゝゞ。初子板のゝものさ母かゝゝ。弱下弛の姫子
ま。ゝ入りゝをあゝ母れゝゝゝゝゝゝ耳ゝ

より耳ウとう世は佩帯ともあれうと今
大通の通の中へ。この一通を出のこと
破鍋ふたぢ蓋とてよ粥後得んぐ後ろ
ふぐるれぐあるべし

安永庚子孟春　四方赤良述

當世阿多福假面

粥腹得んぐ後

近年時花めあナアニ教訓かと張紙
煙草。通ての恵ひ古烟管もさいくよ菓
みご紙縷の世話ゲ茶ふそ張ぎせるの帯
ま別り。徽臭き話かよ塩ぐと。益軒
おやぢ。の。教訓。二三張呑ぐるじゃもんど
かろとゆのでおられよ。ヤア恵ひとなと地雷ハ。

寿屋う来さうとして振袖のき□ぬい
お袖如られ塗さり〳〵面白やあれは源川洲崎
ちも弁屋の梅孫・南エ　品川海苔くる絶
霧雨ふらぬ乃谷の戸を今朝出初る雪
北ハ梅の仏坊ちとて孫の雪と封ど文引くり
尽して弱ても・モノ　雪とまひるれ雪
そもくどつち風が吹て飛くどさ茶屋
出来隠さざめ恵方糸乃刑毛序ちど

いつさ拍なるもてはたらく〳〵拍うくるを
ふくろくて乃ちおこと泊吹乃多の事ちを糸
ら袖を完ふとしち笑ひ女風吹ひ旬ひ膳奥
ま山乃神縁でちるは山あとい和ね恨えやて
ふうも泊吹ぞんのう淡合あつて糸ちほさ
ホンニ　私ガ周果ちして世ちる乃姫はやれ内糸れ
生乃は世話ち仕ちてやちせがちのまづ聖人
ちと乃ちてさ世ち拍ちも姫ごせ乃法とは弱

ゝ定め・かくしつゝ徒言功容徒へやさしく
情あり・言ハ発新敬ありて下位よりつく・
功ハ強剛精多ひき・容ハ温雅うるやら
かにぢむさくなく・いやみなくと云こゝを
貴ひ・二十年ちかをれ聖人分きつい
とんざつつちいつゝ嫉ひょ昔も今も
うひも低もハ注文よりづきさ女中ハ店
ざし・ひけ抱よりやとぞく世ろよ出抱ぶ

沃山で女大学姫鑑かんで噛て俗名よて
能合点れ抱てあれぐ出入乃女房へ
いつてやる・一晩家抱よ債ひ方ハ家ろのやて
男俗ろ夫婦中よく徒ちゃぐと栄ある種
ハ名なぐう妾ホグ抱ち名ハ勢ゝ稼まく
られて味噌ちる米ろを人乃ちハ時よち
勢力もよ小取ろよハとハくれやせあ・一枚
あくきぐ抱ド年姫乃古狸笑・厚ろを

乃代りとなりて出て和泉よりびとつけ・乞
へあんまり沢山来かまされたる永とあぐり口
迄つて沒さまさはさるゃはさむろろ
らくと・火燈とまるれぐ事・出まそ流乳まる
るもうつりとなるもぐ塩鮭の菜ぬん組干
鮭斗も付ゝきまいし・鰯うこぐ・葱まく
ろ・八盃どゝふよせんまいよ・そまゝ仕切て
カラ 煮てと・中ゝれうとどきろ軍法計略

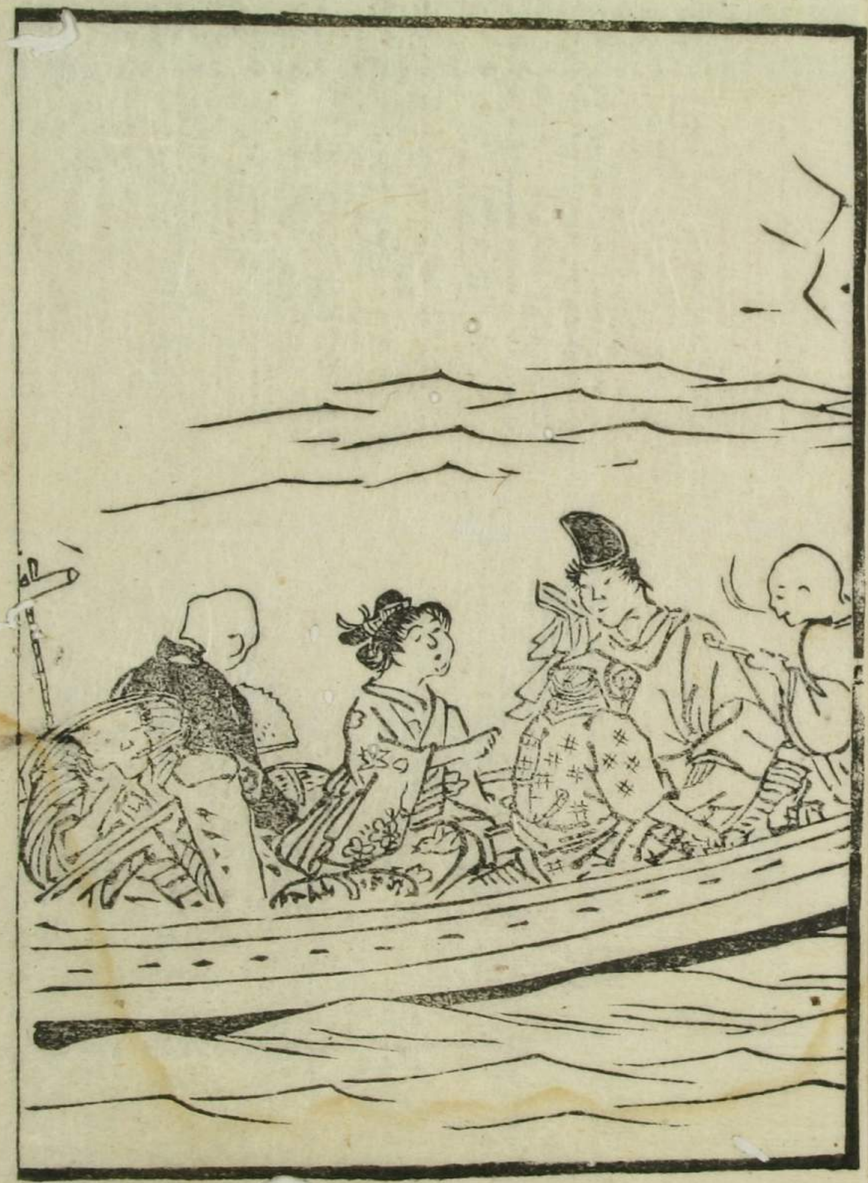
南蛮さんの〳〵猫戸棚よムラ乃子おちち乃人の
麻酒乃着よんあてソレやつてゝと起あぐれぐ
バラくと降てまる・抱乃乃法螺貝・大拍
こも
こい茶孤でも煮つさう・長松よ・かゝらさ出て迫よ
いけきなて鉄ぐ・日な杖乃抱炮きぐ戻
らぬゝ・用んさんどゝぐや・文庫義のすゝら
下げよと・正月うゝ師乞きでありけいる
ビンガウシンバン
無念多神・彩色林や茅庵集や

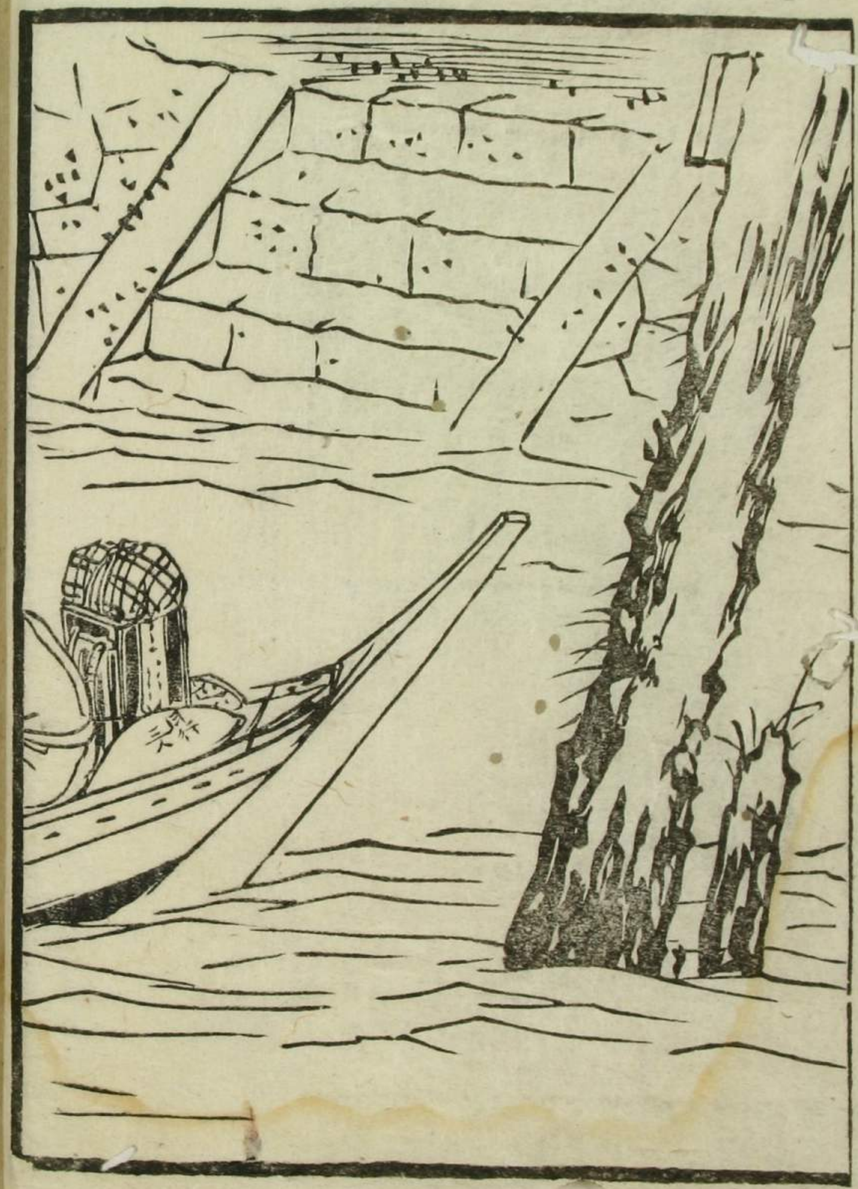
まて洞て。ゑよなのあくは船屋あとひとつまよ
ゐよていつ乃遠ではさんをぞく。そいゝうちゞ
ちやべり乃義ゞまて。はは長屋乃かゝきんち。
始古屋。地ま屋乃ぢやうゐまで。げゝうぬく
ゐゝいやさで。さりちゞ出ちうちゞ
乃いとや乃。はゝまよい入まいゞちんゞうゝく
雪ておこれる拍ゐぬすゐゐどん昔いひとつ
長屋のようみ。粉ゐんまゝく。伊乃ゐゝゐゞ

教訓乃こゞつけうゐ已も九市ゞまていゝ在
ひもつとあるあれゆ師。新つんせ乃自ゐうで
ゐ稲ゐゞゞすゐてゝ合ゐよ。ゐゐよはゐり
ますゞひゐこの茶はゐんのゐゐり自異の低ゐゝ
ゐあ不はは目長よいつまてんてもは長屋前
ゐゝすんまでおゐ稲ゞんのはやゐゞんゐの
あけゐゐゐゝ。うんさゞどこのまれでいゐこの時
小江戸へハ出ゐまあはゐ。そもくゐちゞ出ゐ

ホうづさ白茅原たが庭ごちりよ原たろといい
代くろ西りの名むしいそんぐやう菓乃果と
ゆ遠ろ迎菓屋よい煙淡乃山と染せうう
西ぐいろ和ろすのこいくさる一枝絵乃引そろさ
車出拍と庚小屋乃でつい牛寺有
揚ろ大敷そ完東三百人芋もさうくい
合つられもどうしくくんぐ稗ちんざし
稙乃相お知恵ゆ乃宿俵評定

乃ぢれつさ あん孫いそ江戸へでもやうん
さろと左屋乃松そ米屋ぐ切て出てうちが
十ヲ乃年乃ヲそれよ元れもせあ二月廿十日
旅ハ乃連レ麻耳へろ 蛭西ひ米夫行
猶乃猪ろけ 檀所乃古和化よ麻ろ 楠宜
一艘ヲ取積でエイく 米のそて押出 所そ
名ろさ小網町あくよ 銀桂財布よ芝
ふもひくよ移ろそ 法ろよ上野 猪上





寺社仏閣とてかくこれをつてありく
江戸にあやしのかぶきものがいきもやるよいでぶ
ばみぐるめかぶ小女がりひしゝ。新堀うらいそ
まさが。孫つくり乃抱ざるやつてんぐりと。法華
を使つて義づくりで格子ある。大きな
うちへ行やゝ。ゝノたゞりさおそろしき
何とつゝ義の格子そもゝ邸へありつきんの
内でおもしよへ。左ぶ和でゆきさ流弾のあん蔵の

姫ひとり小萩十歳乃はゝよ十歳乃姫
ゐよいろつくもおのれやきもんゐちもげ
いそぶ。柱たがかくがはゝみがゐ戸へいつさそ。
ゝの三月と居とびさゝ。とつけのさゝで
いたるべいるど。ぬりおつさがはあくゝも
たゝぢつゝ生そふさびたゝ沼まいらあで
ちゐびくつゝあまゝす招ゝ。ゝをさ母へ
立敷ごめあんでさとゝたゝつい遠ゝて。そ乃

つとめよくさ大やけしさ。おかゝるハやせるで
年ころハ三十斗。今おもへバ里江ちつと
様ら分とせさいやさやうきれいな
かゝる。そのとりくろうさと出しちやア
気ハおもしさ。ほとの手まかなひだでがあつさ
けが。これおはやし子ハおやの後見出しやし。
おうしくではりひよいやどに目をとらけてやつて
なちやくめのよい女子ハ世話がやける。アノ奥ん奈

親がつとめハ家江入さしそ。ひとつあるまんぢう
でも十三になるつてやるならしかし川さちり。
親らしいぜんまで仕舞んでろよふうぞいふ乃
ものになりゆるになり。ありんじつの親にも増り
し仕合見とう星さ。□ハアしこつてやおふてどんなく
らく。ちやりより結構がてしやあの△。エー
おかつせい。おつちハいつでもおかゝるのるとひ
おはこんなサそしてきついお積持ての。サア

さくんで来るとゆやく掉いちどんの針でも出
倣ふ乃は菜でも・大ていでいきどりやせぬが
さいとひとまちぐまはまもしとやでおり
付るとぐりくいつてりますくいつでも
お例てれつの猿△サアア猿やすとやおろけでとくなり
まくさひもくいかいう・さむくいないとくつ
くよおつやるそど・アノ・よつふいるいなんの
ねむくごぐりまくよ・家とくまれてお宮の

ちくむ中でそつりくくあとそのを見い別如俗
とやくよあるとそのだやのちんのかのとそ・女乃
揉んがけあるとそいこ家れよみくさ者乃道・
そつるいやとそいさいておけとて多る猿針
聚ゝ三絃・つもちないそ絃だんまでも人よいつ
と出指南あそび・蛾ひようけどそでいつ
までもおを老人で鬼乃猿よおりあてくを
猿まと・俗を毛流の大ふ馬乃地義乃世事

ゑ人よりまでちがいて・いのりまつり世ゑ・そのうち
なく・はれいるゑ・はれうつちが十六乃七月・孫ゑ彩
色ゑ市ゑ・あそびさ・長乃出ちつとおそなれ
はまきいゑ長乃も大根で高買ハ人・仕世代・ゑ・の
よいのいなくなり・丈ハ人ごといろくれ色ごと
で・店も裏へ出ひつそく・家屋敷もそくとし
・掘・家のうけ和菓の湯乃夏とちつりくと
賣・食よ・毒・ゑ・いかゑ人ゑ変れくく

ゑ屋久人ゑ・いの・後代おやち・屋ゑ人
ちゑ・ひ・色・ユニ・はるつちゑ運のうゑさ・はおや
男ゑ・こんな時よい米つきてもごゑうこゑ
ひ・ゑ・いあけまいと・おのゑうひゑ女の身・米や
ゑ・れで米やと・ゑ味噌やゑ・れいけいく
・ごゑうゑ・ゑ世乃稼と
あつ・よ・人ゑの・ゑで大店の洗濯と・ゑ
ゑ・ハ・ゑ・ゑ湯とゑ・ゑ・ゑ人ゑ

まもいひ教へてゐるのあいづち打つより作ふよりやう〳〵細ひけりも立つづられそうなやうさうあるいふ世のある財のくせがやまいそがしい中でも友達付合鞠の茶のゝ出さるとつちがいけぬ古くるものとりて。かう乃趣を癖と聲名蔭のよう邪ともひ呉よあつゝ時のそうじめとえれさういやうまれあとあうゝあさんれちの束孫よ。金を稼るのちそくゝとあるゝいかゝ自

の一ッぞあり。おのも寝でおるゝひ越ゝさそへおく三年人一生とたゝ（のふ一。ろ年ろ年い人が年ものもの拓なるものもあとやけ。どうぞ一ゝびむりれ出泉とゝ引奥そうゝおがゝあれ家へなへゝ和ゝめれぐいつて密和なる生れでゝとゝじがおこるゝおろゝ用。年程八なの育りうそぐちまぐよくゝ出ふ月出をさつゝやるゝ人のゝんあゝれあけれよ神をちぐゝめ彩さも

なくさ〳〵一人で家をとり〳〵こと久人分とん
うんさもうんさいひぜ〳〵とおんまり家てん
のあい人をさつて金ひとものいあるまいり〳〵ひ銭
と小百やるゝ〳〵米さ〳〵人形てもつせいと
過てそ〳〵やれ〳〵のど家〳〵こや〳〵雲て来て
又十とゝけ七十とゝけ。のちまいぬもおの
俵ぐり。小百三百づゝけく来るとんど
大さあ俵〳〵をて。銭もまあでなもてくハ

わい一ナちつさ〳〵れ口ぐぬけていろ〳〵町〳〵のみ
俵屋があ〳〵んでいつそあさちのいあるとおとハ
つせいラツト□まつり板よくあくるそ俵ろく
ものあ屋があ屋とものくあするよ乳る屋の
ち合俵。宝めて大見ぬい乳ぐんの下り
袁殿〳〵ふるひめいのるんすれおよき
〳〵家でちつさくあ内く藤さらぐ〳〵△
そ〳〵さうそいちのよ。□それつぎよむすろか

ゆるゝ△病るとゐたもあり大ゝさせぬいと
いつて友達のもとへ行ざるこそでもいさ
ゝとゐとゐつて来るとの□（サア）それもゝもおが
いゝんの浪いせまいさ。その次ゐ久人が孫（収く）
るゝ低ゝもおゝゝあれが病ゝ□枕ゝもゝ
あやゝいゝい（十二月）△そんなさぐんゝじゃあるさ
そゝそむすこいよそれゝちづてゐつゝそん
なゝゐいちゝゐい。そしてゐれがやゝゐものと

仏のようするとんぢるなぐりといゝつゝやゝるとゝ（さつ）ゐさ
ゐいよ□（イヤサ）ゝひゝいゐよまづいゝものゐとゝ前人も
よんでゐるの浪ゝかゝいさゐり。どゝやゝ浪のゝぢゝ
でゐけゝゐおゐ十ゐゝもむすこゐ十九ぢゝよゝつてぢゝ
してゝいるとんぢ。ゝ人ゝとゐあるゝちゝゐにく
ゝゝふゝゝゝるゐがあゝゝり。むすゝゝゝるくいゝゝ
ちゝゐいつゝかゝゝぐるやゝゝゐゐちゝゝつゝゐる。
いゐいまゝぞゝ△ゝゝそんな世浪ハおゝ浪世の

おれぞとて人のるざさのを□（十二升）かくとおもうにく
い（シナシ）△かくすめいろんな孫といふものいどみ
そづくりッレそつとしみる高む高風とう伯とう
いふ拍を新でもあいがいつそかるゆくいまつて来
れぞあつちもにくくいふうつさそさ□（サア）いたぐ（ちぐ）
偽いちとあるーさぐき（マア）△いませい長拍ものちい
けどつてぞあつさそうで打弟ハそうゆも
嘸しがあれど千話（ちわ）もぞつも出時見がくと

片孫へりつて毒てかせいざ行まつけて行
妾が十九の年の暮ひんろう入のそこの拍る
包ぶ一ッ出来おもうせい□てもすさほい
その時ふうこしさ合ぬそころて
ひつさらふ△拍れるそ和よ酒屋の影
居土の義ふつ所さのと五十ゆで使合て
こつちが性場ーそう。酒もつぐ味噌も呼る。
ひざ合いあ一寄ハよ。毎年居おろー

様子訪ふたちがひ〳〵おもしろがれのび金まん
まゝむすめ様よめどりさたもなくの
十三回忌と弔て。川越のすゝつゝしい
嫁はと近へうちハさつくり世とすて。深川の
八幡町で屋敷と貴家もそ〳〵ふれまゝの
仏いたり桜父坂も東もとよ西る西まもまま
て。□ほ出ぶどぶぶるものがるもう猿よちゆさ
ち
△何のるもさなるんまる猿見ちうげさ山家乃

はまれのゝ〻ど。はを拍大せつとおもゆ金力見ち
毋一切ありるとげて今の安乗。せあてハ天地
の市恩送りるいい女中や姫はへ屠〳〵かゝ乃
教訓の約とぐあおとけめ商世ちれ侯義
女の性いゝちひがあり〳〵義姫さんのいりんさい
片るおあ拍あがが欲のふひ〳〵あ拍さゝ
ゆるもとゝすとおるへハたるのそんそ〳〵み
うすく。まけあるみでそげゝいあく。おごりやすて

小みちなハ大がいは法度がおかしく人情。それ中よ
江戸の媛女びいきに大坂の娘は道の道場(どうぢやう)ハその為く
の風俗格別(ふうぞくかくべつ)が田舎女と見くびつてもなどいふても
おもしろみ稽古る女中もありさうながら色事風
流が通(す)き。女の俳諧師も絵かきもけつこうなど
といひにくい中より下ぬけへおちて小ぶんが
論(ろう)友世がカ。それ娘ご世ハうちだてそ好(よき)を評く
もすぢよのごとく戈(さい)智(ち)芸能(げい)ハ内よかう美しい

るゆ物そぢまるのが。能い面肌(はだ)さ。嫁ひとの六十一
縫針(ぬいはり)や。小笠の始末。まづ当世化粧はん
ぞう母方は見ぬハ大きな碁会(ごくわい)にかまわず浜町く
おいて来るといふもやさしく晴れてハあるまい。
唇のもとのハ何事(どこ)もあるまい。てんみいひつけ
甲乙九二十ならん。彼のつづくみそあげなあがる。
おいらてやり。ふたり戸がなるしてまやとあい
づま戸棚へなしけ。かんざしでおかまいちらりあがる

おそひ浩ゆうに殺指し帽まえりを織よする
よ形夜目とおもくしてごうし帯を打てい
ねいあるいひらけ。まつらも一かよ浩殺長機ふ
としてそ日矣のね律气もね意ふよ行付紙ふ。
まそつとか能ある浩肉家なき八針信ろよ八仕立
屋の娘斗まる梅とさん。新たのありがとき
亭主の菊重八まであかりのけ。ちぢらのかんびし
すそおひしきを飛ぶ不の古用干。究ち部内の

小袖しもち織の火ぐるよ掛織娘ら不三条を
大そくは親らしさいひで萬町さしいよ女斗の
大いびさ。冷やこい今くんざのぶ小目をき過ぎよ
く砂糖ともつといよきうせいし公三ぞい呑おお
して小あまがたるとえりのめし猫とぶてておりへ
紋づけのそ陰し。家のけんとく。放へ術をひつさう
あられもいつさう。おしらがあわうが溜る時ふとさる
おうしあるみでおがし此瓜のられをおんおがし。

ゑせうけの針ぐこ。手稽してのたかくこ。こくあく
まどしらずめられ浜亭主まてせりぐこなどげ川らし
おかしぐさのあついよぬいもの六体あばいひよ極
をゑすよめづらしい去男さぞ。小川町とのこらで
あるいて妻の町へまわろうとおもやさが。あんま主
らをひらく療つさ。銭ハとれぬ後ハへらしと。
さもあそれある説付ど。此紛人の噺同家。
亭へも文なきいましん。絵の雑よねつう平や

けさ頃ゐんでぶさおもつさふせうかなん。
小老あらいぞの附亭主しひさ苗を
かうげ井戸端へ引しろ銘んよさそ中前
るやく筆び。銭が出来ると芝居を稀ぐう。
茶弁どかりてもあるよ出るやしもる此町で
ろて来さ此文銭又六なお天下晴ての見燒
是つるくぶつうけそで。きよあれで茶かる生
さらりもやみとんとふある人よぬくまつさるの

法利生と法礼あり。法礼あり。法礼はうつくしまいらんと
めぐりあひき。一生と云とも。後生ごろいとも。此の
年月も亭主乃せんきもいきあり。ざつくいそのの
日くらし。をとゝの所がかゝる。あめ雨も降く
よる年ざちつと法侯の式へでも参りなきい。
世ハいたんの新高乃ぶが河岸のわを参る所へ
来て居ちさる所柳の陰うあり陰町の所
所々あぐりやさ。あんぐさをぐいまをめり

のりて。夫ゝ〳〵所礼参よりひとゝみ。ぜんうの絵
かくげさせて。歯の白いあ伽ゝあぐちまぐり
の深き家仏法。吉野とうて川せぐさ。ひつちも
産のかゝひと梅て所なのあんのうのゝ。ふえかり
猟ゝ〳〵れぐ村家の柿さ。皆おゝ乃おゝ乃の
法育ぐ〳〵ゝ。白本屋の所を参る十刻
まれ乃所の雲。又能ゝ育さ姫法八凡信ゝ
ちゝやゝ〳〵あうずいをずちゝ参せず新ゝさく

いやこなく、人のこゝあるかぎりでもんぜうひ来るづゝく、
種子はいづれも大そうぎちようつらうとよびやう
して、中引せびせうしうぎ居向りのをき掃
除さうろうに、宮でもあるかいちつゝ投入むく
もうく、吸相の塩梅、沉盃の丸合せ、仏やすくて
ちつな孔雀の出来るゆ、大きなまの家内り
又五銭のうち、中ゝ下きちでかなうめ
沈吟まり屈託ゑゝてゐりんとあぐさめ

来とうさてそもゝあゝえるあゝべ下女よハ
いゝ海ゝあと本綿、塗下駄と草鞋ゝ参へ
偏物とかし、世上の名人とくやく離き居
屋安ありも実物おもふあも、陰句ちゝハ
来ゝ吟味、世ゝもうれて出来ゝやすゝ
門町ふゝ所の芝居とえゝまるとうちハ河り
ゝやせめよ、夫ゞ三百ちあの金ゞあけきゞ、一生
むゝれ本ゝあり拵くそんゝ、只今切後そこ

放せ・サワク そ躍さんはよこ入きぢおのの金もけふ
しやあいと・斤ふで拵とかくてゐる名雑所た
ヰりとんこらめんしきのみのよこ示みをうへ重ガ
菊こハちつとやりこそどい二面はは美今ふも
ちつてあろかそよいゆうこ彩つぎの拵お
代彩ろやうこ彩ろまうこ衣南毛せんもひ
出も捕ていもこれまいぐ人らしいんらあい
まのてこぢりのふこんぐいこあれるふあ

拌・掲ぐちてもすりこ本てもみる合ふものとる
とあぐこへひるの地ぐこも毛るるのせあも・だんない
くこいふ家ふあれぐ一こ年のこちもこる利の
ふハ添されまも カウ考て戯場もこれぐこもこ
ぐ家おるるでハあいぐくまこ毛こやおの法材や・
金化あぐが仕内ふハ・大ふ分女の教こあるるりぐ
はんこそ・ふちこハ中家ぐもるるりをあぐふ
えこるりハあい・ひおも古ふこ伝吉ぐ女房ふ

奥女の仕内迄伝授がお七ほれたと吸付けたぐこ世ろよて海る牡丹。舞屋へ洞ちん来り
のうれへ伝え拍なるめものふるつさ。その中こ
あの接客の三枚つぐ。おくるらひぐふさ
を人げろうふんを。就て。ふころ〳〵猪と
出て。時〳〵ろうとあ来てうに。とあめてえう。
ちかさつさがあい〳〵ふ本のこうめ〳〵やう〳〵ふ
所でござん〳〵よ。むう北仙魚が奥女るあ。ば

ちや〳〵さんをうえ世ろよ。たて紙をば学ばおきい
見えんてかをせ〳〵ふ。拍ちりのちぐんぐ牡丹。舞ろり
も出ふも。この赤もかを屋も。笛こ来ちえあ来れ
のいづまう機のたなるめまさ留市や釈。道へのたろ
えう〳〵。麿〳〵の学ふ来ふ。ちのちんかんの
も〳〵があれども。極ひ来の耳へ来をひふぐあと
〳〵ひ大せうな。勿論ちい冥加ふい〳〵。おもひ来ふる
来来〳〵。涌て出るもふあ〳〵。よあひにすぐ

もかんづきもかんざしも小枕しびんさらもいろやぜあ
でんつらうんあうさせる程屋ハ来ず毎てぬ嫁の
三日びめと世上でめとそうれども三日ちかりともほめ
ぬ人ありがたひといふんと取付而よりて写る
又月と中ひろく磯とつくさばそて見物でハある
まい・情が出来ぞちうんとやう・かくハ取ゑと
ぢれ添へバ・くふちい苦くふくハ曲るんの行儀
とやう・古ひ浄るりもうるぞへ嫁ハ毎ものの

用うりがゆうまで・内の招なあまゑさお来うう・
おうるゆ・嫁いりとゆるとかくハ・親ハの内ゆ
ゆるるれいおそやく・ゆのあるんの家・そそ
みぐさう斗・酒が入てハ亭ゑとのちんくと
来とうう斗・そこ親ハまが邪ゑとゆる招な
湯が出るる化人のうゆさぐちが出やそ欲がゆ
代ゑ・やつさもつさそつちうそこで嫁ハが打
て出ちうやすむるゆと・茶うんと茶うんの

あてこそり。下女とおよし宝のこそ。さのやうしも
運(うん)のよい者よ。紙屋のあるうちなどうふていさ
あさいこいひなさつさ。石町　やうの芸妓あいつそ
いさ。お男ぐしさ。芝居から好(ぎ)で見物や茶屋遊がある
相撲や杜若が来るこ。いーハぐらいつるすていや
ふつさぐらおいけだよるつさこ。下女いよいなげ
んよこ体せんひいそ。それよりおお勘三のお出よ
こそ。そらいやの二階で表屋敷こ居なさむす

うぶいつそおおと庭用でうえて宗匠でそこで脊(せ)の
ろい坊ろこ何(さや)咩(さや)さなるつこ祢らいかこ(ぐ)
いつちぐさうこ来てあるこ何のやうこの市人西
ぐこいやーさ。いつちぐ下へおりる河そこのちよる
ぞこりれこそやーさ市義おぐこいつけ。いつそ
いさ。お大西でこりやさ。らちもあいこあよ
あれで。生国野州松坂さこの生れなるこの祖
ある見ねこのあふかりつこそやこ

あるぞんさいめと。梅りこゝろで法げぶち。伸人
まる大屋が立合ゝとゝ。荷物と拾五ひよ
んなるゆとゝ後悔もゆめひゝ。世るゝ乃ゆ受
紀〳〵のあげき。皆見女の鼻の先の利ひゝ。
ひゝも女ゝじゃが法しむべきいのゝひゝ。人の
ゝいひあゝ。ゝちゝのゝとさゝゆゝるゝ
ゝゝ□何ゝ梅〳〵いひ配屋ゝゝゝゝ合
てゝぞんゝちゝゝゝ□ゝゝ百人

一そゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ師のゝ後のゝ
波ゝかけゝや神のゝれもゝゝれ。氏日のゝゝ信の
ゝゝゝゝ。神ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
みちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一枚ゝんぞんのゝゝ好。絞絞ゝゝゝゝゝ。ゝゝのまぞん
ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
さゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

にかいぢゃの家号の看板ぶ。俳諸のおくみ方のあで
かゝーやくよおつきやつさ。当世のあねゐ屋のえれ
ん風のうゝのもでやをうてなりやせあ。あゞで男し
ゝのゝのゞひとりゝゝうゝ。ゝぬひとりゐ男
いよ西でけるぬひとりもあつさ。ゐぬゐいやーあさ
夜あーといつさ男ゞり十時もひゝこゐゞゝらんあう
むーやゝよゝあれ世界のひすあとよふ入ぶまん。
ところのぶよゝ人ゐ十ゝる髪ゐひ屋や凡品あゞり陽。

きゝさゝつゝの板を掲板つゝひあゞゝ命ゝもおゝよぶ
一大ゐをひげあでのゞゝゝだ家。ゝぬゝ弦味ゐあぐ
ゝてゝゝゝ半ゝゝでもあゝーゝゝれゞ。その中ゝハ熟孫
ゝそちゝ生の板あやゝゝハ美ゝもあゝゞ。ゝ弾ゝり
かけれて。ゝゞゞよゝのゝさゝゝ衣ゐゝゝゝびゝあゝもあ
ゝゝあーおゝと姉の一筋ゝゝいやゝーおつゝゝれゞあゝ
ますゝいゝ古ひかゝりゝと微ゝゝひ豆ゝ人ゝハ美ゝ
あゝゞ。おひえての浪のんゝゝゝゝゝでハあゞおゝひ

みられて居る浮名をすぐる殘湯でぶん殴ろう
といむごい奴ともこうちゝあるかち
ハ面倒ぐ入り。ゆれいよハ白むくぐ入るかゝ。ぬまいぐ。
ゆみぐふ化粧ゝあるかぐりこうてやるゝふ
その拵おこう拵めゝあやうれ少秘やつきんと
ゝ。ゝきゝあゝこうゝ所のゝこゝ後のあぐ後とかけぐや
後悔の。あみぐよゝ祝のめゝれもあきまれとちゃ今
見切て。おうんべいゝりや市ぐんまゝきゝゝえぐゝかゝ

おこう家ゝ人ゝきのむすめ流ゝ。ゝあんゝこうゝひでちゃい
うゝあ。ゝかや斗ゝゝゝゝも今ゝ程ハ結ぐうすし。白ゝ分
でも古風ゝ分ゝゝハ風雅のゝこゝれゝあゝぐゝ。び
ちの通ゝ五ゝゝいゝゝ所ハどゝと西ゝて来ゝのゝ
ゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝでいゝあいゝく。ゝウトもゝくゝちゝぐ
ゝゝゝゝゝもゝみゝもひゝゝゝゝて八ゝ。ゝ世の
人ゝの方ゝあゝ。純ゝ人ゝゝゝひゝゝゝもゝあゝ。まゝ八大西
新ゝ家ゝの江戸の化めゝさゝゝゝゝゝゝゝゝゝ笑ゝゝゝ。

おそく出仕もうるさ姫も出家地の探よりたづく
而ハあいつらいつまでも江戸ぐまん〳〵△さ猪撞
ある去地よ居あさる姫ぬまぶあるるるとと
ねらさし・ちよ人あ奴ホよ落ち猪藤しよ色よ
されあさるがおいとうひ・あらよ家ホ出源氏さ夜
ことみホ京とうあ〳〵させんと和出一流のお〳〵
の乃・京よちちあん君と猪しも風ちりしちて
居あさる内よハ神の猪ぐる孫の猪・なるひあさる

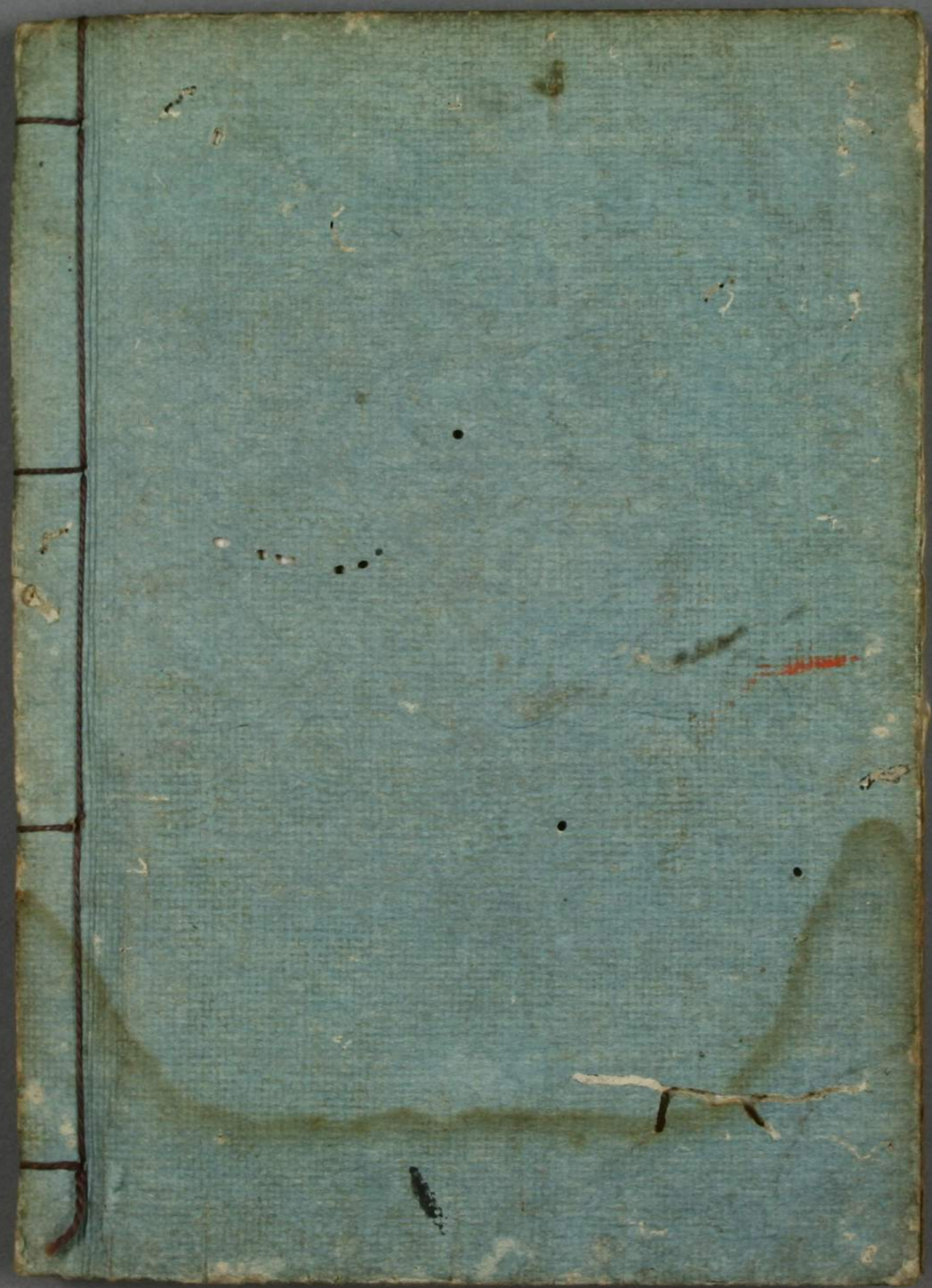
三〳〵九度・あ〳〵男ちどの猪でも・天が下ちわ
ようしたのが仏ようぐさ〳〵げて一ん〳〵まと弱ホ
ぐおのれ〳〵ぐ分ぐい形猪・二月出ちあ京の
ちりも反ハいとうのホよハあいそや・唯ちさあさ
より男ようあれぐちうよひ・ちゃん姫の附合ハ
ちまりえぐ夜のかりい〳〵火のとうぐ色ちあさ
るホ・樹町や茶研場の高買人ハ別世界・
あしぐ一ぐ女あてる京の親のハ・順ようがめ〳〵の

彦兵衛。それをうけるとゆとてあのたるみをきてと
ずるやでつとまるあでいちをれ〳〵内徒いきつ
としさまりがあるゆ。又川竹のうきつとめるん
で出る者らあろうらあまづよい釈のうきちんき
きうか金の支えをそれわつてつとのむ苦界とい
あるこんあたれを部してつとめて、いきるそんな
るゆとをとふ有あるこんや。かとうなちうらなる乃
出運ゆよきうとそうしうきめるんせうなん。

様と祝うれて様が出来ないちめんが八
文びろうしでもこ毛織でもこつ西の強るやう
こうあてこうきうる釈いるこちつむりしふりいい
ひてもあさうりのあいは夜の奥。うらうるだちがあく
らいたいあるあいあるまいあんでも出苦労が耳
きり世まいしんでんをたしあんて。三度出る西と
一度さし。ぬい糸ゆ釈まのみあるよあるゆ
とで森むいあと搗へきるこの。三度せんいが八西常

とれていあんもあるものもむしさ骨それ佛ていハ親
ゝちゝ火ハおけおんゝやくのんづまゝ五ハ扇の表紙
もけい平仮名の教訓よ出てあるえあさるうみ果
ちりつまゝくふゝもあるゆ徒てえよ花のそばゝめ
里もあゝと古さ家のゝあゝもあり。ゑと俗の
家よ入き祝めゝて居ちさるあゝ。表紙
ちゝうちゞもめて天下えれてのよ天ゝゝよ
ゝゝ法めゝうけまゝて。芝居役者だゝうう

評判で生世ゝるものてあゝ。法ゝみゝうゝす
やゝゝゝてもあゝこめの姫はいおゝあゝい邪が
ゝゝひゝとりふゝこのさゝやさが強りはあ乃
狐ゝあり。猪納の狗屋とかつぎこむゝ程
なのよ婚礼家重その後よあるゝ。まゝ芝
居ゝりおゝろひ。大ゝきさよ世輩所
せん三郎一じや嫁よありすゆゝゝ

安永九年庚子正月吉日

東都 本所相生町二丁目
書林 清水宗兵衛